

保護者向け 公表	児童発達支援評価表 実施期間 R7年11月18日～12月2日 ご回答 29名/31名
----------	--

(保護者の皆さまへ)

○ 本評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所を利用するお子さんの保護者等の方に、事業所の評価をしていただくものです。

「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「わからない」のいずれかに○を記入していただくとともに、「ご意見」についてもご記入ください。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	29				園庭や室内にも、からだを動かせるスペースが確保されている。子どもたちが、広々と活動できていると思う。たくさん子どもが動くようになったので、色々な活動をしているのがわかります。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	27	2			配置数が多いと思う。一人ひとりが十分に支援を受けていると感じる。年度途中で団人が異動(法人内)になったのは残念だった。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	28				クラスによって特性があり、とても考えられていると思う。とても分かりやすいと思う。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	29				清潔感があり、とてもきれいです。玩具もしっかりと収納されていて、活動に集中できる空間になっていると思う。いつもきれいで、子どもたちが十分に遊べていると思う。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	29				園での生活の様子をみて、子どもに合わせて支援されていると感じる。一人ひとりに対して、理解してくれていると思う。日々できることが増えて、毎日驚いている。
	6 事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	29				支援内容以上のことにも配慮を感じる。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。	29				子どもの成長に合わせて課題を用意されたり、保護者の意向を確認しながら、作成されていると思う。子どもを考え(きもち)を作成されていると思う。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	28			1	子どもの支援に必要な項目が適切に設定されていて驚く。具体的な支援内容は、家でもできそうなことは参考になっている。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	28			1	支援計画を優先してくれているので、達成できてくると嬉しい。
	10 事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	29				家族行事は楽しく、子どもと一緒に楽しい時間を過ごせて嬉しい。とても工夫されていると思います。おたのしみ会楽しかったです。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	10	3	5	11	多分、他園の子どものとの交流はないと思う。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	29				とても分かりやすい丁寧な説明でした。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	29				いつも丁寧に時間をかけてくれます。一つひとつ丁寧に細かく、聞き取りや意見交換しています。また分かりやすい支援内容の説明で嬉しいです。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	29				色々勉強になります。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	28			1	日々の成長や発見で感動しています。
保 護 者 へ の 説 明 等	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	28	1			聞きやすい環境を作ってくれています。子どものことはもちろん、きょうだいのことなど、様々なことを相談させてもらっている。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	27	2			とても温かく感じます。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	28	1			ゆっくりお話ししたいと思います。なかなか難しいですね。おたのしみ会、きょうだいもとても楽しんでいました。親も子どもたちの成長が見れて楽しかったです。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	27			2	いつも相談にのっていただき、とても助かっています。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28			1	直接の電話で子どもの成長や発見を教えてくれて、とても嬉しく、楽しいです。
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	29				園からの手紙(とらのこだより等)、楽しみにしています。
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	29				

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	29			インフルエンザ等の連絡もすぐきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	29			定期的に訓練が行われています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思えますか。	29			
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思えますか。	27	1	1	小さな怪我でも連絡があります。細やかなこともすぐお知らせがあり、安心できます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	28	1		初めは涙する日もありましたが、今は安心して楽しく通園しています。家での様子と似ているくらい、素の自分でいられているようです。先生やお友だちが大好きなようです。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	26	2	1	笑顔が増え、楽しく通園しているのが伝わります。とても楽しみにしています。ニコニコです。
	29	事業所の支援に満足していますか。	28	1		手厚いサポートにとっても満足しています。子どもの成長を共に喜んで頂けて感謝しています。

※1 「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をすることがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2 「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3 「児童発達支援計画（個別支援計画）」は、児童発達支援を利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び到達時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5 「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。

従業者向け 公表

児童発達支援評価表 実施期間 R7年11月4日～11月10日 11名/11名

○ 本評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所に従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。

「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	1	・今年度ひよこ組を「ひよこルーム」として使えるようになったことは、工夫できる環境への取り組みかと思う。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	2	・適切であると思うが、もう少し人手があると、外出しての療育活動ができると思います。また机上活動も広がりを持てると思う。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	2	クラス内での構造化がしにくい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	1	建物の経年劣化もあり、(木材を多く使っているので)メンテナンスが必要。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	1	・小さいお部屋が少ない。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	1	毎月の目標設定(適切な療育支援を考える/キーワード)と、その振り返りは有効だと感じます。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	2	気付き箱の設置により、具体的な意見が増えた。出しやすくなった。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	1	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	1	機会はあるが、外部研修できる日がたくさんあると、もっとよい。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	11		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	1	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	2	活動リーダー任せになってしまうこともある。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	1	

適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10	1	できることもあるが、人でのこともあり個別活動は難しい。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	2	細やかな部分の確認が不足することもある。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11		クラス会議を定例的にを行い、情報共有しています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	5		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	2	必要に応じて実施していますが、相互理解という点では工夫が必要。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	6	5		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	10	1		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6	5		
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	10			
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11				
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	5			

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	11		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	1	きょうだい支援には課題。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	11		
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	11		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	5	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	1	一部取り組みが延期している訓練もある。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	11		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11		該当児が少なく、指示書や対応について未経験の保育者が増。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	1	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	11		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	とらのこキッズ		
○保護者評価実施期間	令和7年11月18日		～ 令和7年12月2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 29名
○従業者評価実施期間	令和7年11月4日		～ 令和7年11月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月5日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの主体の療育支援への日々の振り返りと積み重ね。	複数名のでクラス担任制。定期的なクラス会議(個別支援会議)だけでなく、その日の子どもの様子のエピソードを話し合う機会を大切にしています。	今後もチームアプローチへの意識と「より良い療育支援」への模索と、日々が積み重ねとなるように保育者間での共有を図りたい。
2	コンプライアンス遵守での保護者への説明・同意・情報公開。	原則毎月の保護者会を開催し、給食・保健衛生へのお知らせを配布・ご説明をしています。	スマートフォンでの保護者とのコミュニケーションアプリを導入し、保護者様へのタイムリーなお知らせ、情報提供を実施します。また次年度安心見守りカメラを導入し、お子さんのケガの防止、検証に活用します。
3	個別支援計画書の作成の初期段階でのアセスメントの充実。	見立てを誤ってしまうと、意味がなくなるので、児発管とクラス担任との意見交換にウエイトを置いています。	過去にとらわれず、時代とともに変化する療育支援のアプローチをアップデートできるように、学びの機会を増やしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流。社会資源を利用した療育活動内容がやや不足気味。	コロナ禍以降、地域との交流や社会生活面での経験的な療育活動内容が減っている。	地域の公園でのうんどう遊び、スーパーやコンビニでの買い物体験等の療育活動の実施。
2	保育者が日々の療育活動に追われがちであり、保育園、幼稚園等での見学や体験の機会が不足している。	自己研修の時間が不足している。	計画的な現場研修ができるように実施したい。
3	センター機能の拡大に対する保育者の意識向上。	メイン事業以外(保育所等訪問支援・相談支援事業)への取り組み。	経験値に関することなく、保育者の外部での見学や実地研修を図り、地域が求めるセンター機能への意識向上を図りたい。